

やってみよう

Aさんは、「物の豊かさ」と「心の豊かさ」について、新聞に投稿しようと考えています。次の指示に従って、新聞投稿記事を書いてみましょう。

指示

Aさんになりきって書きなさい。

指示

新聞投稿記事は四百字程度です。下のけい線に収まる程度に書きなさい。

指示

次のメモはAさんの意見文の構想メモです。必要だと思つ情報を使つて書きなさい。(必ずしも全部使う必要はありません。)

意見(主張)

「心の豊かさ」を大切に、少しだけ「物の豊かさ」をまんすれば、環境問題の解決の糸口になるのではないだろうか。」

根拠

・江戸時代の人々の暮らし

①江戸からのメッセージ 今に生かしたい江戸の知恵「杉浦

日向子(『国語』『光村図書』)

・リサイクルするのは当たり前前
という生活習慣

②自分さえよければいいという
心の貧しさが環境問題を引き
おこす。

・京都議定書

構成＝双括弧で主張を強調

・書き出しと結びを対応させる。

・反論()「時間の節約で余暇が利用でき、心の余裕ができたり、
娯楽文化を楽しめたりするのは心の豊かさになるのではないか。これを手放すのは難しい。」に対する意見

①江戸からのメッセージ」という杉浦日向子さんの文章を読んで、私は「物の豊かさ」をほんの少しがまんすれば心が豊かになり、環境問題も解決に向かつて、いいことづくしなのではないかと思うようになりました。

②江戸時代の生活は、物を大切に、節約する、再利用するということが徹底していて、その生活の基盤に、思いやりの心がありました。ですから、現在に比べれば物は決して豊かではないけれども、心の通い合う豊かな生活であったことがうかがえます。これに対して、現代は便利さを追究するあまり、心が貧しくなり、その心の貧しさが解決の難しい深刻な環境問題を生んでいるようです。

確かに便利なものの登場で、時間が節約され、余暇を楽しんで心が豊かになるという面もあるでしょう。娯楽文化も多様化し、多くの人が文化的に豊かな生活を送れます。

しかし、現代は、人間の生存さえ脅かされる深刻な環境問題を抱えています。生きることさえままならない地球村の仲間もいます。これらのことを考えるならば、「物の豊かさ」をがまんして「心の豊かさ」につなげるべきではないでしょうか。江戸時代の日本は「物の豊かさ」を節約して心豊かに生きるお手本になると思います。

